



## インフルエンザ感染症が大流行!

### 《インフルエンザについて》

流行時期：冬～春（12～3月）

感染経路：接触・飛沫感染により感染する。

主な症状：発熱（38℃以上が多い）、悪寒、頭痛、筋肉痛、関節痛、  
全身倦怠感、咳、咽頭痛、鼻水

診断方法：抗原迅速診断キットによっておこなう。

治療：ほとんどは安静、解熱鎮痛剤の使用で回復する。

発症後48時間以内に抗インフルエンザウイルス薬を投与することで、発熱の期間を短縮できるとされる。

潜伏期間は1～2日であり、咳や咽頭痛、鼻汁が先行して症状が現れ、  
その後に強い全身症状が現れる。



近年では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行に伴い、  
手洗い・うがいなどの感染対策が徹底されたことなどによって、2020・  
2021年のインフルエンザ感染者は激減していましたが、今年は大流行し  
ています。  
これまで同様、手洗い・手指消毒・うがいなど感染対策を心がけましょう。

※登園（登校）が可能になる時期：幼児・児童・学生は発症後5日を経過し、  
かつ解熱後2日（幼児は3日）を経過するまで出席停止となっています。

## 《解熱剤の使用について》

インフルエンザに感染し、解熱剤を使用することがあると思います。特に生後6か月～5歳まで（1～2歳がピーク）は38℃以上の発熱で、熱性痙攣を起こす危険性もあるため、お子さんがぐったりしている時などはためらわずに使用してよいと思います。

しかし、解熱剤は使用間隔を4～6時間以上空けるといった決まりがあるため、次に使用できるようになる時間を気にする必要があります。

また、座薬などの解熱剤を処方されることがあります。処方後に残った座薬を冷所で取っておく場合があると思います。

次の機会に使用されるときには、そのお子さんの体重が増えていることを考えましょう。医師から処方される薬は、そのときに使うことを前提にお子さんの体重に合わせて処方されています。体重が増えていれば、以前に処方された薬は効き目が足りない可能性があるので注意しましょう。座薬の使用期間は半年～1年が目安です。解熱剤を使用するときの参考にして下さい。

長野赤十字病院 病後児保育室ゆりかごでは、  
病気や怪我の回復期にあるお子さんをお預かりしています。



感染症の流行期などに「ゆりかごだより」として情報を発信してまいります。

長野赤十字病院  
病後児保育室 ゆりかご  
TEL 026-226-7753



ご利用についての詳細は長野赤十字病院ホームページをご覧ください。

QRコード または「長野赤十字病院 ゆりかご」で検索